

全国視能訓練士学校協会

平成30年度 第11回教員研修会報告書

教員研修ワーキンググループ

平成31年3月

平成 31 年 3 月 吉日

はじめに

全国視能訓練士学校協会 教員研修会は今回で 11 回目となりましたが、教員研修会参加者は前年度と比較し 10 名多い 42 名であり全国 23 校の養成校からご参加いただきましたが、ご参加の先生のキャリアは様々で視能訓練士免許を取得されたばかりの先生から 30 年以上の教育および臨床経験豊かな先生まで幅広くご参加いただき盛会のうち終了することが出来ました。

教員研修会のテーマは、前年度のアンケート結果を受け「臨地実習」と決定し、教員研修ワーキンググループ (WG) で協議を重ねた結果、単年度テーマではなく臨地実習前、臨地実習中、臨地実習後の 3 つのカテゴリーに分け 3 年計画で実施する計画とさせていただきました。

臨地実習はご承知の通り、知識と技術のみならず様々な局面に対する精神コントロールが重要であり、教員研修 WG でも「実習生は何事もネガティブに捉えてしまい、学びや行動の変容につながらない」「真面目な学生ほど自信を無くし、心が折れ易い傾向がある」等の意見が挙がりました。

そこでこれらの問題に対し教育講演テーマを検討したところ「レジリエンス」という概念に着目いたしました。レジリエンスの定義は多々ありますが一般的に「心の復元力や逆境力」のことを指し、レジリエンスを高めることで様々なストレスに適応していけるようになるようです。

さて、池井戸 潤原作の「陸王」や「下町ロケット」をご存知でしょうか？どちらの作品も主人公が様々な障壁を乗り越えるストーリーであり話題となりました。「陸王」では役所 広司演じる老舗足袋屋の社長に対し何度も理不尽な出来事が襲い掛かりその都度窮地に追い込まれますが、決して諦めることなくあらゆる可能性に粘り強く働きかけながら難局を乗り越えていくストーリーです。そして最終話では「しぶといことがうちの一番の強みかな」と言って笑うシーンがありました。つまりレジリエンスの側面から見ればこの社長のレジリエンスは高く、取り巻く人々もお互いに響きあい徐々にレジリエンスが高まるストーリーであったかと存じます。そして視能訓練士専任教員におきましても、実習生が不慣れた臨床現場における適度なストレスをプラスの力へ変換し充実した臨地実習を過ごし、資格取得後も成長し続けることができる高いレジリエンスを獲得するための働きかけをすることが学生指導において重要なのではないかと考えました。そこで教育講演では「レジリエンス」をテーマとした多くの研究活動をされている平野 真理先生（東京家政大学）をお招きし「学生のレジリエンスの理解とアプローチ」につきましてご講話いただき、レジリエンスの定義、評価法、個人差に加え、レジリエンスを高めるポイントまで幅広くお話いただき、今後の教育活動に繋がる大変良い機会となりました。

賛助会員協賛企画では 7 社よりご協力を賜り、最新の商品展示が行われ、教育および臨床現場にて有用な情報を得ることが出来ました。

ご参加いただきました先生におかれましては、本研修会を契機とし更なる教員資質の向上と教育指導内容の充実に繋がることを祈念いたします。

平成 30 年度教員研修ワーキンググループ

齋藤 真之介（九州保健福祉大学） 露無 陽子（帝京大学） 加藤 権治（名古屋医専）
鈴木 ほまれ（東京医薬専門学校） 四宮 敦志（吉田学園医療歯科専門学校）
立本 志磨（大阪人間科学大学）

目 次

第 11 回教員研修会プログラム	1
教育講演	4
グループワークと発表	1 2
賛助会員協賛企画	3 2
研修風景	3 4
教員研修会アンケート	3 8
会長総評	4 7
全国視能訓練士学校協会 加盟校一覧	4 9
全国視能訓練士学校協会 賛助会員一覧	5 0

全国視能訓練士学校協会

平成 30 年度 第 11 回教員研修会 プログラム

目 的

1. 視能訓練士養成施設の教育レベルと教員個々の指導スキルの向上及び教育指導法の共有。
2. レジリエンスの概念を学びグループワークにてレジリエンスの強化ポイントを含めた「臨地実習前の学生指導」をテーマに教育法を立案し共有する。

受講対象者	全国視能訓練士学校協会加盟校 専任教員
開催期間	平成 30 年 8 月 29 日 (水) ～30 日 (木)
研修会場	滋慶学園グループ東京本部
研修内容	<p>研修Ⅰ. 教育講演 「学生のレジリエンスの理解とアプローチ： ストレスを乗り越える力を引き出すための視点と工夫」 講師：平野 真理先生 (東京家政大学 人文学部 心理カウンセリング学科) 単著：レジリエンスは身に付けられるのか 個人差に応じた心のサポートのために</p> <p>研修Ⅱ. グループワークと発表 「臨地実習前の学生指導 (態度と行動、患者接遇、知識・技術)」</p>
プログラム	8 月 29 日 (水)
	<p>13:00～13:20 開会挨拶 (概略説明) 13:20～14:50 教育講演 平野 真理先生 14:50～15:10 集合写真撮影 15:10～17:30 グループワーク研修「臨地実習前の学生指導」 GW テーマ：1. 態度と行動 2. 患者接遇 3. 知識・技術 18:30～20:30 懇親会</p>
プログラム	8 月 30 日 (木)
	<p>9:00 開 場 9:00～10:45 グループワーク研修 11:00～12:10 グループワーク報告、質疑・応答 12:20～13:10 賛助会員紹介*、商品展示見学、研修会アンケート 13:10～13:25 修了証授与、会長講評 13:25～13:30 閉 会 13:30～14:00 商品展示見学 ※株式会社インサイト / 株式会社システムギアビジョン(旧:株式会社タイムズコーポレーション) / 株式会社ティエムアイ/東海光学株式会社 / 株式会社ニデック / 日本アルコン株式会社 / HOYA 株式会社ビジョンケア部門 (50 音順)</p>

教育講演

「学生のレジリエンスの理解とアプローチ：

ストレスを乗り越える力を引き出すための視点と工夫」

【講師】 平野 真理先生

(臨床心理士 / 東京家政大学 人文学部 心理カウンセリング学科 講師)

東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科 人間生活学専攻 講師)



【略歴】

- 平成 23 年 駒沢女子大学人文学部人間関係学科 非常勤講師
- 平成 24 年 東海大学文学部心理社会学科 兼任講師
- 平成 25 年 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース 特任助教
- 平成 26 年 東京家政大学人文学部心理カウンセリング学科 非常勤講師
- 平成 27 年 東京家政大学人文学部心理カウンセリング学科 講師
- 平成 27 年 東京家政大学大学院人間生活学総合研究科臨床心理学専攻 講師
- 平成 29 年 東京家政大学大学院人間生活学総合研究科人間生活学専攻 講師

【著書】

レジリエンスは身につけられるか—個人差に応じた心のサポートのために—

【専門分野】

臨床心理学 (keyword : レジリエンス、パーソナリティ、発達心理学)

学生のレジリエンスの理解とアプローチ

ストレスを乗り越える力を
引き出すための視点と工夫

平野 真理
東京家政大学人文学部心理カウンセリング学科

本日の流れ

レジリエンスとは

- ・どのような「心の強さ」を見ようとするか
- ・どのように導かれるか

レジリエンスの個人差の理解

- ・教員が学生のレジリエンスを理解する視座
- ・学生のレジリエンスを高めようとする際に必要な視点

レジリエンスを発揮するために

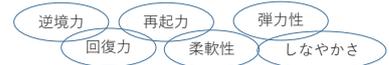
- ・ストレス状況に立ち向かう前にできる工夫

(c) Mari HIRANO 2018

レジリエンスとは

レジリエンスはメタファー

resilience



1. The ability of a substance or object to spring back into shape; elasticity:
元のかたちに戻る力、弾性
2. The capacity to recover quickly from difficulties; toughness:
困難からすばやく回復する力、タフさ

[Oxford English Dictionary]

つらい状況や傷つきの中でも
“元に戻る”心の強さのメタファー

(c) Mari HIRANO 2018

「心の強さ」にかかわる様々な概念

概念	ストレスに対して主に…
ハーディネス	強靱になる
ソーシャルサポート	環境を整える
ストレスコーピング	避ける
心的外傷後成長	受け入れて強くなる
レジリエンス(回復力)	柔軟になる

(小塩, 2014より)

どのような「強さ」を重視するか
によって用いる概念が異なる

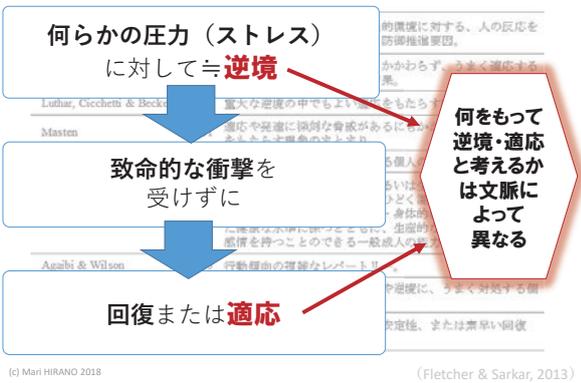
(c) Mari HIRANO 2018

ハーディネスとレジリエンス



(c) Mari HIRANO 2018

心理学におけるレジリエンスの定義

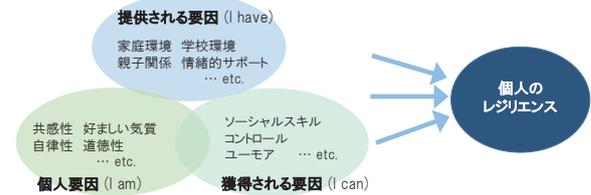


レジリエンス研究の流れ①

「レジリエンスは能力である」

- 回復・適応できる人が持っている能力＝レジリエンス
- レジリエンスを導くレジリエンス要因

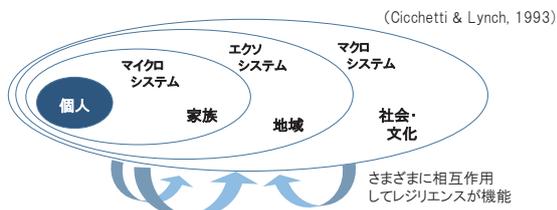
レジリエンス要因の例



レジリエンス研究の流れ②

「レジリエンスは能力ではなくプロセスである」

- ある状況でレジリエンスがうまく機能した人が、別の状況でも同じように機能するとは限らない
- レジリエンスは個人の固定的な能力ではなく、環境(状況)との相互作用プロセスのことを指す



レジリエンスの個人差の理解

レジリエンス(能力)を導くレジリエンス要因

様々なレジリエンス要因のうち**いくつか**が相互作用して個人のレジリエンスを導いている

共感性	チャレンジ	興味関心の多様性
ソーシャルスキル	社会的外向性	努力志向性
自己開示	好ましい気質	抵抗力
ユーモア	問題解決能力	忍耐力
コンピテンス	洞察能力	楽観性
知的スキル・学業成績	肯定的な未来志向	肯定的な未来志向性
自己効力感・有能感	その他	身体的健康
自己統制	自律・自己制御	自立
感情調整		道徳心・信仰心
		自己分析・自己理解

(平野, 2010)

(c) Mari HIRANO 2018

ちょっと思い浮かべてみましょう

最近あった、ちょっと困った出来事を思い出してみてください。
どんなストレス状況を、どうやって乗り越えましたか？

(c) Mari HIRANO 2018

ちょっと思い浮かべてみましょう

あなたにとって、つらい気持ちを切り替えたり、回復させてくれるモノ・ヒト・場所・言葉・行動は、何ですか？

明るくなる曲は？ 落ち着くにおいは？
好きな場所は？ 元気をくれる芸能人は？
話を聞いてくれる人は？ 切り替えられる考え方は？
没頭できる行動は？

(c) Mari HIRANO 2018

個人のレジリエンス(能力)の測定

・レジリエンス尺度

レジリエンス尺度の例 (精神的回復力尺度；小塩他、2002より抜粋)

	い い え	～	は い
✓自分の感情をコントロールできる方だ	1	2	3 4 5
✓自分の将来に希望をもっている	1	2	3 4 5
✓自分の目標のために努力している	1	2	3 4 5
✓怒りを感じるとおさえられなくなる	1	2	3 4 5
✓慣れないことをするのは好きではない	1	2	3 4 5

海外・日本のいずれも、レジリエンス尺度は多数存在

(c) Mari HIRANO 2018

二次元レジリエンス要因尺度

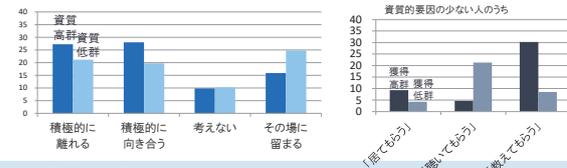
個人の有するレジリエンス要因のうち、持って生まれた気質に影響されやすい要因と、そうでない要因に分けて捉えることを目指した尺度 (平野、2010)

資質的レジリエンス要因	関連する気質 (TCI)
楽観性 将来に対して不安を持たず、肯定的な期待を持って行動できる力。	不安の少なさ、新しい行動の起こしやすさ
統御力 もともと衝動性や不安が少なく、ネガティブな感情や生理的な体調に振り回されずにコントロールできる力。	衝動性の少なさ、不安の少なさ
社交性 もともと見知らぬ他者に対する不安や恐怖が少なく、他者との関わりを好み、コミュニケーションを取れる力。	見知らぬ他者への恐怖の少なさ、他者への愛着
行動力 もともと積極性と忍耐力によって、目標や意欲を持ち、それを努力して実行できる力。	忍耐力、新しい行動の起こしやすさ、不安の少なさ
獲得的レジリエンス要因	関連する発達 (TCI)
問題解決志向 状況を改善するために、問題を積極的に解決しようとする意志を持ち、解決方法を学ぼうとする力。	自分の意思による行動、人生の満足度の高まり
自己理解 自分の考えや、自分自身について理解・把握し、自分の特性に合った目標設定や行動ができる力。	自分の意思による目標設定
他者心理の理解 他者の心理を認知的に理解、もしくは受容する力。	他者と同一化する能力、人生の満足度の高まり

(c) Mari HIRANO 2018

尺度得点の特徴による立ち直りの違い

資質的要因が多い人と少ない人では、立ち直りに関するコーピング方法や、求めるサポートが異なる



資質的要因の少ない人は、
・傍から見るとまくいっていないように見える方法で立ち直っていることがある
・“望ましい対処の仕方”を促すよりも、まず「聴く」サポートの中で本人なりの回復を支えながら、もう少し他の方法も試していけるための余裕を育む

(c) Mari HIRANO 2018

(平野、2015)

レジリエンスの多様性

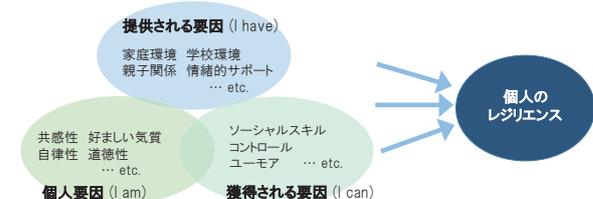
- ・とりあえず考えない
- ・ちょっと休憩しよう
- ・信じるのが大事
- ・諦めも肝心
- ・近づいているのに気づかないだけ
- ・なんかかなる
- ・努力していることがすごい
- ・すぐに叶ってもつまらん
- ・できることからがんばろう
- ・ほかに自分が得意なことをすればいいと思うよ
- ・気長にやればいい



(c) Mari HIRANO 2018

尺度を用いたレジリエンス評価の注意①

レジリエンスは、レジリエンス要因の和ではない
レジリエンス尺度の合計点はその人のレジリエンスを表しているという錯覚



(c) Mari HIRANO 2018

尺度を用いたレジリエンス評価の注意②

レジリエンスは、
量的な個人差として比較できるものではない
個人のレジリエンスは多様
「高い／低い」という一義的な量的比較で議論する
のではなく、質的な個人差に注目する必要

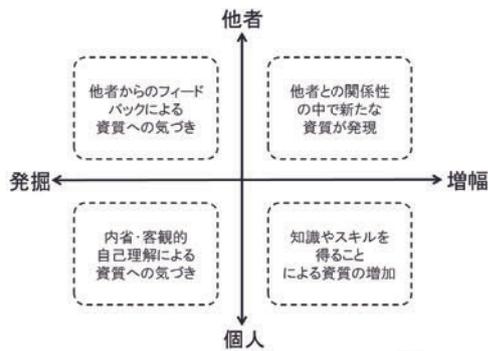
「レジリエンス尺度得点の高い人が○、低い人が×」
個人間の相対的な比較よりも、
個人内のレジリエンス特徴を理解することが必要

望ましい「レジリエンス」像があり、
その能力を身につけなければいけない
という教育への流れが懸念される

(c) Mari HIRANO 2018

レジリエンスを発揮するために

レジリエンスの拡がり



(c) Mari HIRANO 2018

平野 (2017)

レジリエンスを「高める」ポイント

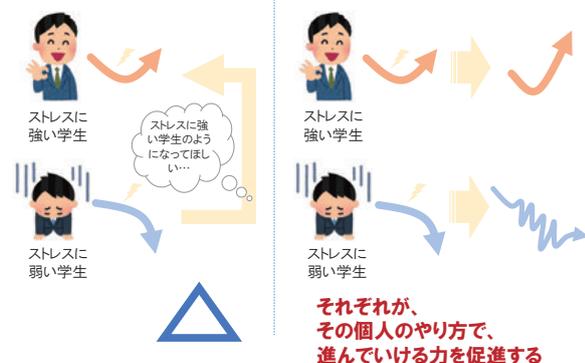
① 自分の内的資源に「気づく」ことができるようになる

- その個人がこれまでにつらい状況を乗り越えてきた経験の中に立ち現れる、**自分の内的資源に「気づく」**ことがその人のレジリエンス発揮を促進する
- 「何かを達成できた」と言うような、**自己を肯定できるようなライフイベント**によって培われていく?

② 他者との関係の中で新たなレジリエンシーを発現させる機会を得る

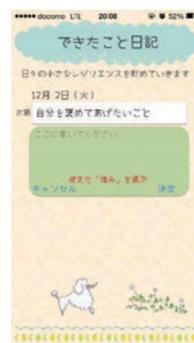
(c) Mari HIRANO 2018

「レジリエンスを高める」で気を付けたいこと



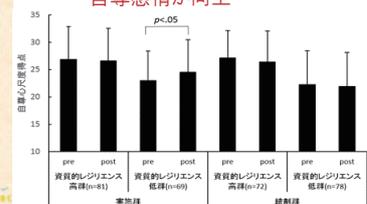
(c) Mari HIRANO 2018

レジリエンスを高めるためのワークの例



対象: 150名(統制群150名)の成人
「今日挑戦できたこと」「楽しめたこと」
など、小さな「できたこと」の日記をな
るべく毎日つけてもらう

⇒ 資質的要因少ない人達の
自尊心が向上



(c) Mari HIRANO 2018

(平野他、印刷中)

最後に考えてみましょう

あなたにとって、レジリエンスとはどんな力だと思えますか？

レジリエンスとは

(c) Mari HIRANO 2018

文献

- 平野真理・小倉加奈子・能登眸・下山晴彦（印刷中）. レジリエンスの自己認識を目的とした予防的介入アプリケーションの検討—レジリエンスの「低い」人に効果的なサポートを目指して 臨床心理学, 18(6)
- 平野真理（2018）. 心のレジリエンス 奈良由美子・稲村哲也（編著）レジリエンスの諸相—人類史的視点からの挑戦— 放送大学教育振興会 pp.230-246.
- 平野真理・綾城初穂・能登眸・今泉加奈江（2018）. 投影法から見るレジリエンスの多様性—回復への志向性という観点 質的心理学研究, 17, 43-64.
- 平野真理（2017）. 資質を涵養する—パーソナリティ心理学（特集：レジリエンスのための心理学） 臨床心理学, 17, 669-672.
- 平野真理（2017）. レジリエンス～多様な回復を尊重する視点～ 広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要, 15, 27-30.
- 平野真理（2015）. レジリエンスは身につけられるか—個人差に応じた心のサポートのために— 東京大学出版会

(c) Mari HIRANO 2018

グループワークと発表

「臨地実習前の学生指導」

グループワークテーマ

- ① 態度と行動 . . . 1班、2班、3班
- ② 患者接遇 . . . 4班、5班
- ③ 知識・技術 . . . 6班、7班

平成30年度 第11回教員研修会 グループワーク班員名簿

1班 態度と行動	
氏名	所属
四宮 敦志	吉田学園医療歯科専門学校
鈴木 まゆ	東京医薬専門学校
大久保 佳織	日本医歯薬専門学校
佐野 智久	静岡福祉医療専門学校
田中 健司	平成医療短期大学
難波 哲子	川崎医療福祉大学



2班 態度と行動	
氏名	所属
二本柳 淳子	東北文化学園専門学校
池田 結佳	帝京大学
常盤 純子	東京医薬専門学校
山村 慈	静岡福祉医療専門学校
立本 志磨	大阪人間科学大学
中西 令子	大阪医療福祉専門学校



3班 態度と行動	
氏名	所属
横田 知絵美	東京医薬専門学校
堀口 涼子	帝京大学
山田 大樹	新潟医療技術専門学校
加藤 権治	名古屋医専
好川 由利子	大阪医専
渡部 暁子	神戸総合医療専門学校
佐々木 信	福岡国際医療福祉学院



4班 患者接遇	
氏名	所属
大西 淑子	北海道ハイテクノロジー専門学校
能登山 桃子	国際医療福祉大学
石井 滋人	東京医薬専門学校
中山 奈々美	大阪人間科学大学
岡 真由美	川崎医療福祉大学
齋藤 真之介	九州保健福祉大学



5班 患者接遇	
氏名	所属
小野 峰子	東北文化学園大学
林 弘美	帝京大学
村田 憲章	新潟医療福祉大学
太田 陸	静岡福祉医療専門学校
永谷 華代	京都医健専門学校
山本 雅美	神戸総合医療専門学校



6班 知識と技術	
氏名	所属
川岸 寿幸	吉田学園医療歯科専門学校
丹治 弘子	東北文化学園大学
露無 陽子	帝京大学
戸田 春男	新潟医療福祉大学
昏石 勝代	大阪医療福祉専門学校
林 泰子	川崎医療福祉大学



7班 知識と技術	
氏名	所属
佐藤 かおり	東北文化学園専門学校
田所 雅弘	仙台医健・スポーツ&こども専門学校
藤原 海渡	日本医歯薬専門学校
榊原 七重	北里大学
望月 浩志	愛知淑徳大学
横田 敏子	大阪医療福祉専門学校



グループワーク「臨地実習前の学生指導」

グループワーク班：1班

テーマ：態度と行動

課題（問題点）

あいさつ、ほうれんそう、言葉遣い、実習生同士の言葉遣い
身だしなみ、体調管理、時間管理、提出期限、
学ぶ姿勢、自己の学習課題、
SNS、守秘義務

指導案（テーマ）

実習生として適切な態度と行動を理解して、実習で実践できるようにする。

行動目標：

- ・コミュニケーション能力を向上させることが出来る。
- ・自己管理能力を向上させることが出来る。
- ・学ぶ姿勢を向上させることが出来る。
- ・守秘義務について理解する。
- ・状況把握の必要性を知る。

時間数：4コマ

指導教員数：1～2人

実施時期：最終学年の4月

場 所：普通教室

指導のポイント

- ・自己肯定感を高める。
- ・事例、具体例を挙げて説明することでイメージしやすいようにする。

レジリエンス強化のポイント

個別指導の時間を設ける（レジリエンスをより高める）

指導の留意点

学生間の評価をしない

テキスト：実習指導要綱、実習日誌

本時案	内 容	到達目標
1 コマ	動機付け <ul style="list-style-type: none"> ● 「実習生に望まれる姿とは？」をテーマにグループワーク実施 →実習の全体像把握 ● グループワークについてまとめ 	実習生に望まれる姿を知る。 →実習に行く自分を想像できる。
2 コマ	実習報告書を見ながら各施設の特徴を調べてまとめる <ul style="list-style-type: none"> ● 使用機器、見学の立ち位置、指導者の特徴、レポートの内容等 	実習先について知る。 →学生自身が実習先にいることを想像できる。
3 コマ	卒業生のお話を聞く <ul style="list-style-type: none"> ● 今までの授業をふまえて事前に質問を用意してもらう ● 4人の卒業生 →実習全体の話 →各10人ずつのグループで話を聞く 	
4 コマ	実習の目標設定を行う <ul style="list-style-type: none"> ● 実習全体を通しての目標 ● 各施設での目標→個人調査書（志望動機など） ● 書ききれなかったら宿題 	具体的な目標設定ができる
<u>個別指導</u>	実技練習→できる点できてない点の指導 個別面談（強み弱みをフィードバック） レジリエンス尺度の使用	自分の強みと弱みを知る
<u>【課 題】</u> <ul style="list-style-type: none"> ● グループワークの振り返りシート ● 各施設のまとめ ● 個人調査書 		

グループワーク「臨地実習前の学生指導」

グループワーク班：2班

テーマ：態度と行動

課題（問題点）

- ・折れやすい学生（自己評価が高い学生が多い）
失敗に慣れていない？
 - ・挨拶、質問、相談ができない
 - ・できないことがあっても権利意識が高く不満が多い
 - ・言われた事を守ることは大事だが、臨機応変に動けない
 - ・指導者さんの意図を理解せず行動していることが多い
 - ・臨床の問題提起をして、どう対応するかが課題である
→ いろいろなパターンをシミュレーションする必要がある
 - ・失敗を恐れないように学生のうちに沢山失敗すればいい
 - ・自分の意見を伝えられない学生が多い
- など

指導案（テーマ）：臨地実習中のトラブル事例 検討会

時間数：2コマ(90分×2)

指導教員数：専任教員全員（教員間の意識を一致させるため）

実施時期：実習開始の1ヵ月以内

場所：実習室・講義室

行動目標：状況の要点を捉え、相手の気持ちを考えて行動する

指導のポイント

- ・獲得的レジリエンス要因を高める
① 問題解決志向 ② 自己理解 ③ 他者心理の理解
- ・自分の意見を言うばかりでなく、グループワーク（必ずグループ全員が発言する）を通して相手の意見にも傾聴する
- ・患者さんや指導者の立場に立って考えることができるようにする

レジリエンス強化のポイント

- ・グループワークを通して、自分の意見を認められる（自己肯定感）
- ・お互いの意見を擦り合わせられる
- ・自分の感情に流されずに問題解決を図ることができる

テキスト：配布資料

	者が近くにいなかったため医師の指示に従い診察室に行ってみ学した。その間、患者さんは長時間待たされクレームとなった。	・指導者以外の視能訓練士に相談するなど
事例 5: 視力検査のレンズ交換時にレンズを接触させてしまった		
患者: 50代女性 (白内障) 場所: 視力検査室	視力検査時のレンズ交換時に患者さんの角膜にレンズが接触してしまった。「痛い」と一言あったが、検査終了時は何事もなさそうであった。	対応例) ・患者に「大丈夫」と言われても、指導者に報告する ・患者に不快な思いをさせた場合はすぐに報告する、重大なことと認識するなど
事例 6: 眼底写真撮影が困難であった症例の対応		
患者: 60代男性 糖尿病網膜症 場所: 暗室	低視力のため固視誘導が難しく、散瞳も不良の患者さんに眼底写真撮影を行った。なかなか撮影できず、何度も撮りなおし、怒らせてしまった。	対応例) ・患者に負担をかけないことが重要であるという認識を持つ ・患者に過度に負担をかけてしまいそうな場合は指導者に相談する ・何事も大事に至る前に対応することを意識するなど
本時案	内 容	到達目標
<u>2 コマ</u> (90 分)	発表と討論 発表 (5分×6班) ① 患者さんへの対応 ② 指導者への報告 ③ 学校への報告 ④ その経験をどう活かすか 討論 (10分×6班) 発表を終えた班が質問する	・①～④が網羅できている ・班員全員の意見が反映されている ・他班の発表を聞く姿勢 ・状況の要点を正しく把握する ・患者さんや指導者の立場に立って考えることができる ・自分のこととして捉えることが出来ている
課題 レポート	事例をひとつ挙げ、どう対応するかを提出させる	・状況の要点を正しく把握する ・他者の立場が理解できている ・(内容によっては) 個別指導につなげる

グループワーク「臨地実習前の学生指導」

グループワーク班：3班

テーマ：態度と行動

課題（問題点）

臨地実習先で学生が言われること

- ・態度、聞く姿勢（実習中での言葉使い等）→ やる気を感じない
積極性が見られない。→ 性格？ 学生 or 指導者の受止め方

臨床での求められるものは？・・・意志表示

「積極性」という言葉が漠然としている！！

指導者に合わせていく → 何を求められているかを考える！！

具体的にどんなことなのかを質問しても学生1人ひとり違った事例

学生の内面

- ・メンタルが弱い・自己肯定感が低い
- ・プライドが高い・成功と失敗の経験がない

指導案（テーマ）：事前に情報を得ることで精神的にゆとりを持たせ積極性を高める

時間数：2コマ

指導教員数：1名（先輩を指導者にするための教員）

実施時期：臨地実習1か月前

場所：教室および実習室

行動目標：自主的に実習前の準備ができる

① 臨機応変さ

- ・メリハリを付ける → On と Off の切り換えをする ⇒ 臨機応変

② 周りの状況を把握する力 ⇒ 気付き

- ・気配り
- ・言われなくても行動に移せる

指導のポイント

- ・先輩から経験を話してもらおう（1か月前に指導してもらおう）
- ・教員との綿密な打ち合わせ（不安を煽らせないように注意する）

レジリエンス強化のポイント

内省・客観的自己理解による資質への気付き → 他者との関係性の中で新たな資質が発現
具体例が出るように導いていく。

指導の留意点

先輩からのアドバイス（先輩があくまで指導をする）

本時案	具体的内容	到達目標
1 コマ	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 } 教員 ・方法 } <p>・GW（先輩から後輩へ）</p> <p>先輩から外来の タイムスケジュール説明</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>実施させてもらえる検査項目 （方法含む）</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>指導者、Dr、スタッフ、 病院について注意事項</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>レポートの書き方（先輩の実際の ものを見せる）</p> <p style="text-align: center;">↓（2コマ目に続く）</p>	<p>実習施設について事前に情報を把握し、積極的に実習ができる心構えを付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日の実習（業務）の流れがイメージできる。 ・実習準備に必要な知識、技術、態度、姿勢を考えることができる。 ・礼儀、態度の重要性に気付く。 ・何を要求されているのか理解する。
2 コマ	<p>・先輩からの後輩へメンタル面の体験談を話してもらおう。（<u>実習中の精神状態を分析し、どの様に対応し乗り越えたのか</u>） ↑この部分を強調</p> <p><u>精神状態を分析</u> → 客観的評価をする <u>どの様に対応し乗り越えたのか</u> → 対策する※不安を残さない</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>後輩から先輩への質疑応答 （随時持っていく）</p> <p>・デモンストレーション（検査方法、立ち振る舞い） → 先輩が行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習をイメージしながら疑問や聞きたいことを考える。 ・体を動かしてイメージし、記憶にとどめる。 ・内省、<u>客観的自己理解</u>によって自分の内的資源に気付く <p>ねらい（最終目標）</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>※身近な人からアドバイスをもらうことで質問をしやすい環境で考え、疑問を出す練習をする。そこで積極性を培っていく。</p> </div>

【課題】

- ・予習（実習先の理念、Drの専門等を調べる）
- ・先輩（スピーカー）から臨床現場のアドバイスを受ける（教員のアドバイスは響きが悪いため）
- ・客観的に自己を見つめて、内的資源に気が付いてもらう。 → レポートにまとめる

↑教員はこの部分をチェックし、必要に応じて面談を行う

グループワーク「臨地実習前の学生指導」

グループワーク班：4班

テーマ：患者接遇

課題（問題点）

臨床実習で、患者と話すときの声が小さいことを指摘される。その他、敬語の使い方、話す速さ、目線の高さ等について不適切である。

- ・丁寧語（話し方に加え、年齢等に応じた説明の仕方）
- ・抑揚 ・スピード（速すぎる）
- ・声大きさ（小さすぎる・・・自信がないため、検査ばかりして周りが見えていない。
大きすぎる・・・うるさい、環境にふさわしくない）
- ・相手との距離 ・目線の高さ

指導案（テーマ）

1 コマ目に適切な話し方スキルについて講義指導を行う。さらに実践にむけ、自分のリソース発見のため、これまでに実施された実技試験での話し方の自己評価と他者評価を利用して個人の資質の理解を促す。その後学生同士で話し方の練習を行う。2 コマ目に被検者ボランティアに対して視野検査の検査説明をする。この際、基本は大きくはっきり話すことを目標にしながら、自分の資質を活かすことも大切だと実感してもらう。3 コマ目に被検者および教員評価を個々にフィードバックし、他者評価および自己評価を行う。

時間数：3コマ

指導教員数：5－6名（各グループ1名）※学生数30名の場合

実施時期：実習開始の半年前から開始する（忘れない・緊張感を持たせる）

場 所：実習室

行動目標：

- ・相手に応じた言葉を使って話すことができる（丁寧語）。
- ・相手に伝わる話し方をすることができる（抑揚、スピード）。
- ・相手が受け入れやすい話し方ができる（大きさ、距離）。

指導のポイント

検査実技ではなく、説明や話し方に着目する。相手に伝わっているかどうか重要である。

レジリエンス強化のポイント

実体験を通じて、できなかった箇所があることを認める一方でフィードバックにより自らが得意な箇所に気づく。

指導の留意点

個人の能力を尊重しながら、アドバイスを加える。

使用機器：視野検査機器

テキスト：医療面接についてのテキスト

本時案	内 容	到達目標
<p><u>1 コマ</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンス（シラバスを説明） ・ 基本的な話し方スキル（丁寧語、抑揚、スピード、大きさ、距離、目線の高さ）を説明する。 ・ これまでの実技試験において評価された話し方スキルの評価を学生が把握する。実技試験における学生自身の話し方の自己評価を行う。 ・ 自分の評価の低い項目に関して、学生同士で練習を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的な話し方スキルを理解し説明できる。 2) 学生自身の話し方の資質を自己評価と他者評価より理解する。 3) 話し方スキルを向上させることができる。
<p><u>2 コマ</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被検者ボランティア（高齢難聴者、保護者、学校関係者）を招き視野検査の検査説明を行い、被検者の理解度と話し方の印象を確認する。 ・ 評価表を用いて、被検者ボランティア、教員、学生自身が評価する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自分の資質を活かし被検者に適切に話し、検査内容を伝えることができる。
<p><u>3 コマ</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 コマ目の被検者・教員・自己評価のフィードバックを行う。 ・ 事前評価と照らし合わせ、話し方スキルの改善度を確認する。 ・ 総括 	<ol style="list-style-type: none"> 1) レジリエンスを発揮し、被検者に応じた話し方を理解する。
<p>【課 題】</p> <p>今回のシミュレーションは1回のみではなく、反復練習を行うことが重要である。例えば、臨地実習前の自主学習時に学生同士でペア評価を行い、話し方スキルを高めていく。</p>		

グループワーク「臨地実習前の学生指導」

グループワーク班：5班

テーマ：患者接遇

課題（問題点）

1. 言葉遣い：敬語を適切に使用できない。
2. 患者誘導：視機能に合わせた患者誘導が適切でない。
3. パーソナルスペース：検査説明の際に必要な以上に近づく、目線の高さをあわせられない。
4. 声掛け・検査説明：マニュアル化された検査説明になっており、臨機応変な対応ができない。

指導案（テーマ）

- ・敬語・ふるまいセミナーを受講し、その模範を学ぶ。
- ・臨地実習前の実技・接遇の確認を行う（ビデオ撮影）。

時間数：3コマ（学生一人あたり）

指導教員数：定員40名に対して教員5名

実施時期：臨地実習前の3月

場所：実習室

行動目標：

1. 年齢に応じた接遇ができる。
2. 患者の視機能や障害物に配慮した誘導ができる。
3. パーソナルスペースを理解し、患者との距離感を把握する。
4. 臨機応変な検査説明ができる。

指導のポイント

- ・個々のコミュニケーション不足や不適切な言葉遣いを客観的に理解し、己の改善点を自覚させること。
- ・人のふり見て我が振り直せ

レジリエンス強化のポイント

- ・ビデオ撮影下の緊張した状態では失敗事が多々起こりうる。
緊張下での経験を通して後学に努めるよう指導する。
(臨地実習において“指導者に見られる”という場合に生じる緊張を再現)

指導の留意点

- ・マニュアル化をしないようにする（必要以上に模範を見せない）。
- ・学生自身に考えさせる。

使用機器：撮影機材、諸検査に必要な検査機器

テキスト：特になし

本時案	内 容	到達目標
1 コマ 90 分	<p>臨地実習における敬語・ふるまいセミナー</p> <p><u>ガイダンス・デモンストレーション</u></p> <p>1) 臨地実習での患者接遇場面呈示</p> <p>2) 臨地実習で想定される接遇トラブルの事例呈示</p> <p><u>グループワーク・ロールプレイ</u></p> <p>1) 学生自身が場面毎の接遇を考案する。</p> <p>2) ロールプレイ発表</p>	<p>1) <u>患者に対する適切な接遇法を学ぶ。</u></p> <p>2) <u>不意に患者に話しかけられた際の対応をイメージできる。</u></p> <p>3) <u>患者に対する臨機応変な接遇法を考案する。</u></p>
2 コマ 90 分 (学生 1 名毎)	<p>実技・接遇のビデオ撮影</p> <p><u>ガイダンス</u></p> <p>1) ビデオ撮影の留意点を説明する。 (意義、撮影するポイント等)</p> <p><u>グループ演習</u></p> <p>1) 学生を 5 人組にさせ、「検者」、「被検者」、「撮影係」を決める</p> <p>2) 呈示された症例を想定し、臨地実習で行うと思われる検査を実践する。(自覚的視力屈折検査、眼位検査、両眼視検査等)</p> <p>3) 2)の間、ビデオ撮影する。</p>	<p>1) <u>検査毎のスムーズな検査説明および、適切な声掛けができる。</u></p> <p>2) <u>年齢の異なる・あらゆる視機能を有する症例に対応した適切な誘導が出来る。</u></p>
3 コマ 90 分 (学生 1 名毎)	<p>教員・他学生によるフィードバック</p> <p><u>グループ演習</u></p> <p>1) 前コマで撮影したビデオを学生 5 人組+教員 1 名で見直す。</p> <p>2) 教員・他学生より個々の学生に対するフィードバックを行う。</p>	<p>1) <u>パーソナルスペースを客観的に確認し、患者との距離感を認識する。</u></p> <p>2) <u>自らの表情や声のトーンを客観的に確認する。</u></p>
<p>【課 題】</p> <p>レポート提出 (臨地実習後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本指導で得られた気づきが臨地実習において改善されたかどうかを記載する。 ・臨地実習の場面で遭遇した接遇体験談を記載する。 		

グループワーク「臨地実習前の学生指導」

態度と行動（1～3班）、患者接遇（4～5班）、知識・技術（6～7班）

グループワーク班：6班

テーマ：知識・技術（実習直前 必要な技術を中心に）

課題（問題点）

- ・ 現在の学内実習のみでは、実習先で必要となる学生と教員の技術の確認が難しい。
 - 学内実習では、被検者となる学生、教員は臨床とは異なるため、シミュレーションが不十分となることがある。
 - 学内実習では、検査の効率性が重視されにくい。

指導案（テーマ）

- ・ 検査項目が多いので、今回は、視力検査の実習前の指導とする。
- ・ 学内実習での視力検査と臨地実習で望まれる視力検査の違いに注目する。
 - 検査項目は、近見視力、眼鏡視力、問診も含める。
 - 被検者は、学内の職員を模擬患者とする。
 - 被検者は、検査を受けた感想をアンケートに記入する。
 - 検査後は、事後指導として、課題や試験の内容についての補講を行う。

時間数：3コマ

指導教員数：5名（学生 30名で実技試験合格者を想定）

実施時期：実習直前

場所：実習室

行動目標：

- ・ 検査をするための適切な準備ができる。
- ・ 患者への適切な接遇ができる。
- ・ 患者にわかりやすい検査説明ができる。
- ・ 遠見・近見視力検査を円滑に行うことができる。
- ・ 他覚的屈折検査を参考にした視力検査ができる。

指導のポイント

- ・ 実施した検査内容について出来たところ、出来なかったところのフィードバックを行う。
- ・ 被検者からのアンケート結果に基づいたフィードバックを行う。

レジリエンス強化のポイント

- ・ 実践的な経験により、検査で陥りやすいことについて学生間で共有する。
- ・ 被検者からのアンケートには、良かった点についても記入してもらう。
- ・ 学生同士で今後の改善点を共有する。

指導の留意点

- ・ 行動目標の達成度について明確にする。
- ・ 臨床の実習指導者の視点で、効率的な検査の展開についての評価をしていく。

使用機器：

遠見視力検査装置、近見視力検査表、レンズセット、検眼枠、
クロスシリンダー、オートレフラクトメータ、レンズメータ

本時案	内 容	到達目標
1 コマ	<p>ガイダンス (30 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試験の意義を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 学生のモチベーションをあげるような説明を行う。 ➤ 試験の流れを説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 検査の順番、待機する場所など。 ・ 検査方法の確認を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 遠見・近見視力検査を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 手際よく、臨床に則した検査を行う。 ◇ 最高視力の検出を行う。 ・ 患者を想定した検査を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 患者プロフィールについて説明を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 被検者 10 名、教員 5 名とする。 ◇ 検査時間は 1 名あたり 25 分とする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 問診を読み解き、必要な検査を組み立てることができる。 2) 遠見視力が測定できる。 3) 近見視力が測定できる。
2 コマ	<p>演習 (150 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 コマ目の続き 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者プロフィールを用意しておく。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 問診 (現病歴 (主訴含む)・既往歴・家族歴) ・ カルテを準備しておく。 ・ レフ値と眼鏡度数は、測定済みとする。 <p>【結果の取りまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の検査結果 ・ 被検者のアンケート <p>【注意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生同士で連絡を取れないようにしておく。 </div>
3 コマ	<p>フィードバック (90 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検査を通して気づいたことを学生全体に説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 到達目標に達したかどうか。 ➤ 検査結果をもとに補足の説明も行う。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 運転免許の視力 ◇ 臨床での経験談 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習へのモチベーションをあげる。 2) 臨床技能を向上できる。 3) 問題点を抽出し、問題解決するための流れを知ることができる。
<p>【課 題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者プロフィールと検査結果を呈示し、問題解決能力を向上させるような課題を提出させる。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 患者プロフィール (年齢、現病歴、既往歴、家族歴、職業、検査結果) 		

グループワーク「臨地実習前の学生指導」

グループワーク班：7班

テーマ：知識・技術

課題（問題点）

- ・症状から疾患が考えられない（知識がないから？）
- ・疾患と検査が繋がらない
- ・学校で習った通りの検査しかできない・・習った検査方法と違うとできない
- ・学生に臨地実習指導者が求めていることの意図が伝わらない（指導者とのギャップ）

指導案（テーマ）

- ・知識と検査の統合
※臨地実習までに完璧にして送り出すことは無理→考え方を教える
- ・基本的な知識や手技は身に付いていることが前提

時間数：5コマ

指導教員数：2名（学生数20名設定）

実施時期：初回の臨地実習直前（臨地実習開始5週間前くらいから）

場 所：講義室

行動目標：症状から疾患を予想し検査を組み立てる

指導のポイント

- ・眼疾患の知識の復習や確認をし、間違った方向に進まないように、アドバイスを行う
- ・発表とフィードバックで全学生に情報を共有する

レジリエンス強化のポイント

- ・知識を得ることによる資質の増加と他者からのフィードバックによる資質への気づきによりレジリエンスの拡大を促す

指導の留意点

学生が主体的に考える授業になるように配慮する

使用機器：発表資料

テキスト

- ・すべて
- ・実際の症例の記載があるもの（見学実習などがあれば症例の参考にする）

本時案	内 容	到達目標
1 コマ	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・症例プロフィールの作成 ※疾患の情報（年齢、全身疾患、主訴、既往歴、家族歴、必要な検査、検査結果など）を作成	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患についての知識を深める ・疾患の症状から必要な検査を考えることができる
(宿題)	・症例プロフィールの教員によるチェック	
2 コマ	・症例プロフィールの修正	
3 コマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで問診の実習 ・問診から検査の組み立て 	<ul style="list-style-type: none"> ・症状から疾患を考え、必要な問診項目を考えることができる ・適切にコミュニケーションを取りながら問診ができる ・問診の結果から必要な検査を考えることができる
(宿題)	・発表資料の提出	
4 コマ	・発表①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた疾患について、問診から検査の組み立てに至るまでの思考過程を整理し発表できる ・自分が考えた疾患以外の疾患についても知識を身につける
5 コマ	・発表②	
【課 題】 ・問診から検査の組み立てを行った症例に関して、実際に検査を行い実習記録形式でまとめさせ提出させる		

賛助会員協賛企画

賛助会員協賛企画

本年度も賛助会員様にご協力いただき最新の商品展示を行っていただきました。お陰様で教育および臨床現場で有用な情報を得る貴重な機会となりました。

ご協力をいただきました 株式会社インサイト様、株式会社システムギアビジョン様、株式会社ティエムアイ様、東海光学株式会社様、株式会社ニデック様、日本アルコン株式会社様、HOYA 株式会社ビジョンケア部門様（五十音順）に深く感謝申し上げますとともに今後ともご支援を賜りたく全国視能訓練士学校協会一同よりお願い申し上げます。



株式会社インサイト



株式会社システムギアビジョン

(旧：株式会社タイムズコーポレーション)



株式会社ティエムアイ



東海光学株式会社



株式会社ニデック



日本アルコン株式会社



HOYA 株式会社ビジョンケア部門

研修風景

グループ発表

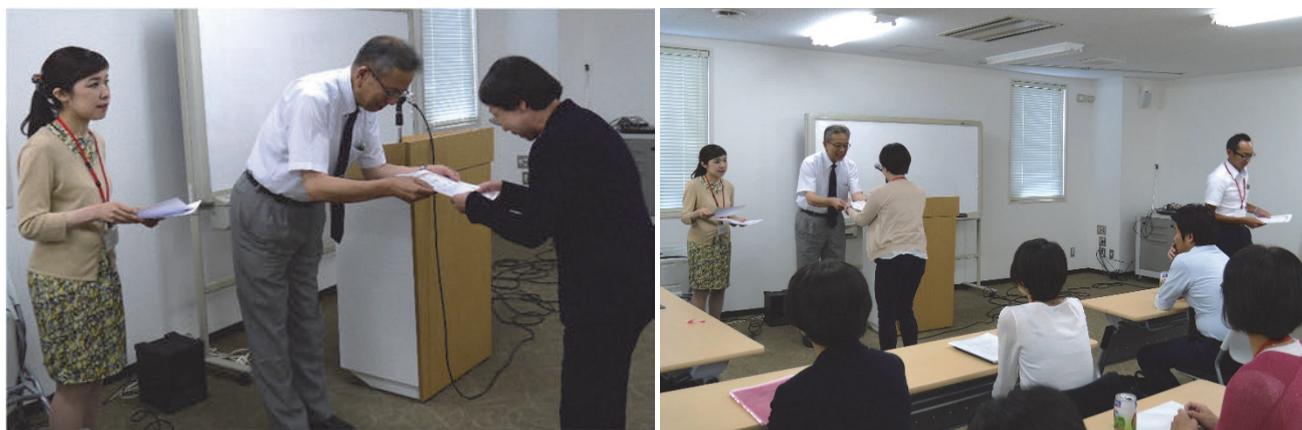
「臨地実習前の学生指導」



教員研修会 懇親会



平成 30 年度 第 11 回教員研修会 修了証授与



第 11 回教員研修会講評 会長 新井田 孝裕先生



教員研修会アンケート

第11回全国視能訓練士学校協会 教員研修会アンケート

全国視能訓練士学校協会 教員研修ワーキンググループ
平成30年8月29・30日

第11回教員研修会へご参加下さり誠にありがとうございました。

本研修会をより良いものにしていくため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

教員歴 満 年 (ヲ月) 視能訓練士歴 満 年 (ヲ月)

※1年未満は月数でご記入下さい。

1. プログラム構成について

- ①教育講演 (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)
②グループワーク (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)
③機械展示 (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)
④賛助会員セミナー (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)
→希望されるセミナーがあればご記入ください []

賛助会員一覧(五十音順)

株式会社インサイト、クーパージョン・ジャパン株式会社、株式会社シード、ジャパンフォーカス株式会社、
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、株式会社タイムズコーポレーション、株式会社ティエムアイ、東海光学株式会社、
株式会社トプコンメディカルジャパン、株式会社ニデック、日本アルコン株式会社、HOYA株式会社ビジョンケアカンパニー

- ⑤昨日の教育講演に対するご意見・ご感想をご記入ください

[]

- ⑥グループワークに関するご意見・ご要望等をご記入ください

[]

- ⑦来年度は「臨地実習中の学生指導」のテーマで行う予定ですが、教育講演で希望されるテーマをご記入ください

[]

2. 運営について

- ①開催日の設定 (よい よくない どちらともいえない)

→ご希望・ご意見 []

- ②タイムスケジュール (よい よくない どちらともいえない)

- ③その他、運営に関するご意見・ご要望等をご記入ください

[]

3. 研修会全体について

- ①教育活動の参考になったか (なった ならない どちらともいえない)

- ②研修会全体に対するご意見・ご要望、研修会を振り返っての感想をご記入ください。

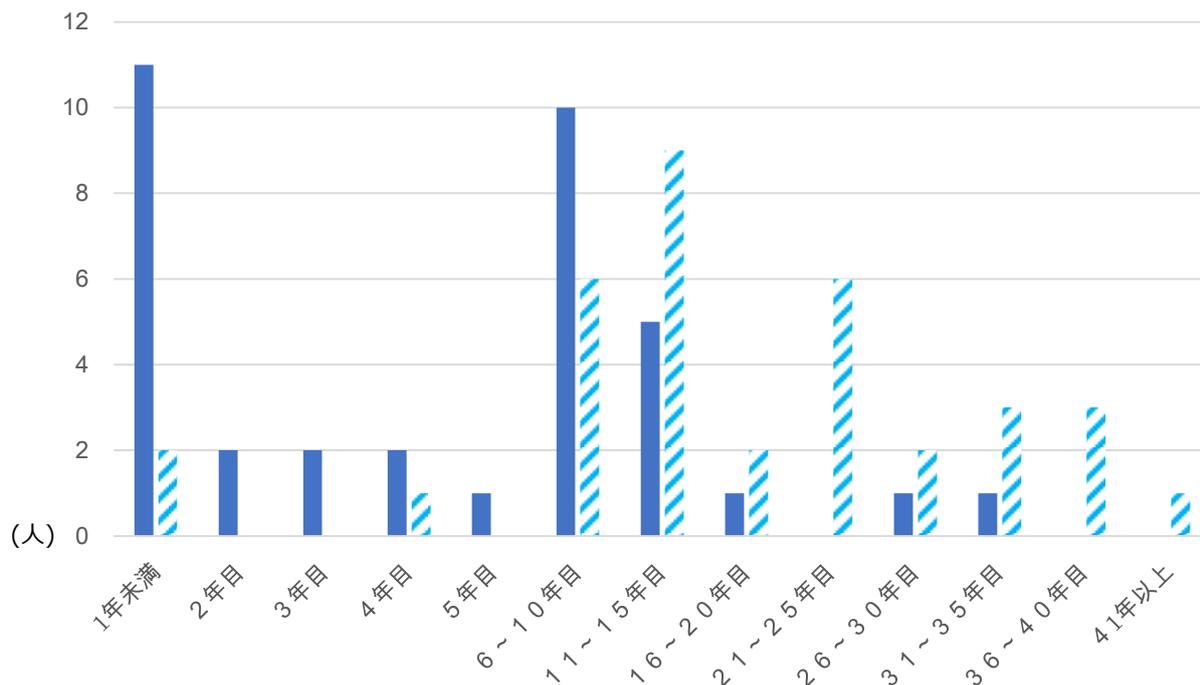
第11回 全国視能訓練士学校協会 教員研修会 アンケート結果

実施日：平成30年8月29日(水) 30日(木)

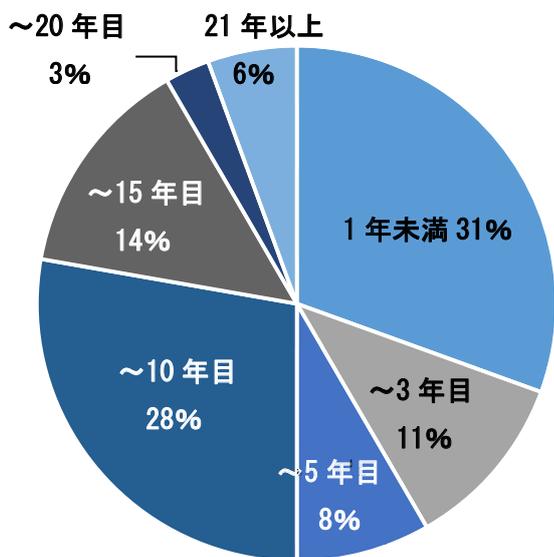
参加人数：42名(視能訓練士41名+医師1名)

アンケート回答数：36名(回答率98% ※教員研修WG5名を除く)

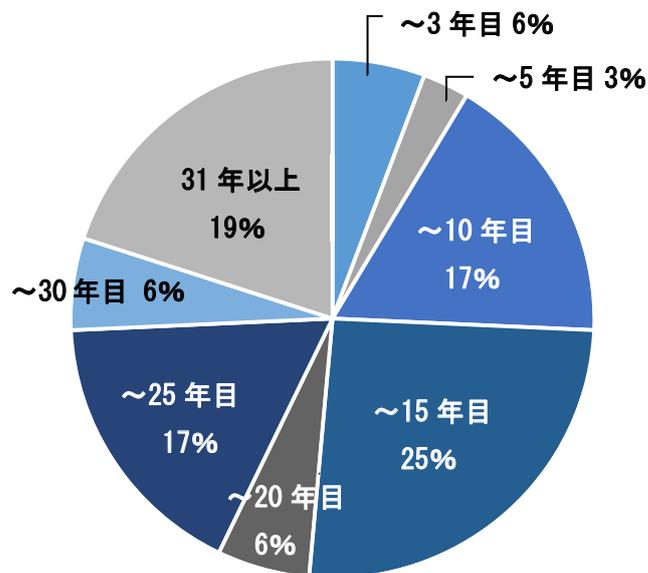
■ 参加者教員歴 / ▨ 視能訓練士歴



参加者教員歴比率

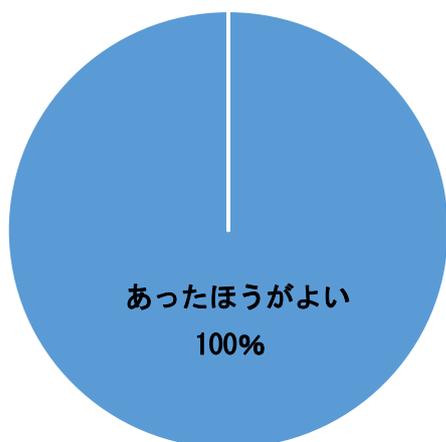


視能訓練士歴比率

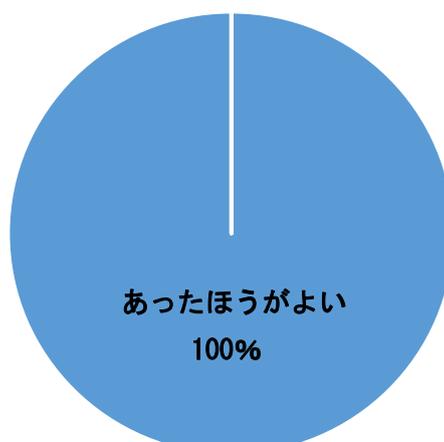


1. プログラム構成について

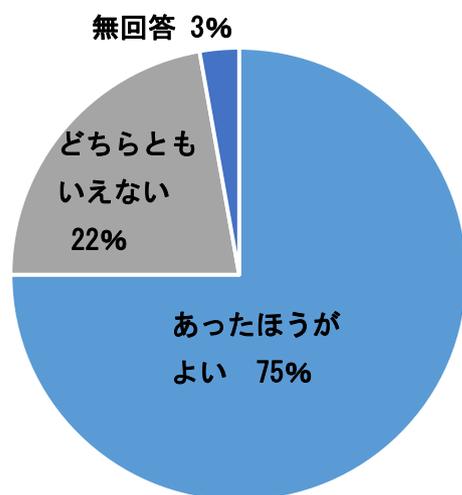
① 教育講演



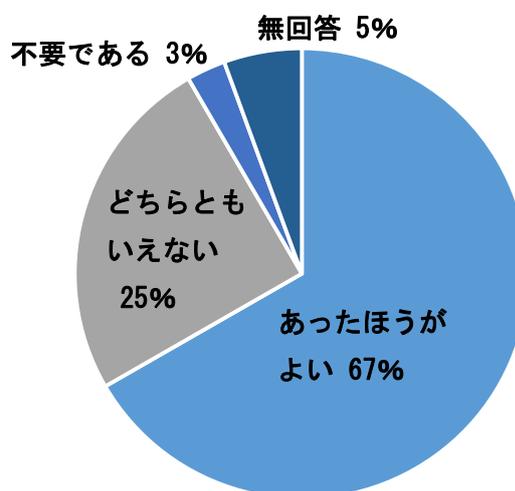
② グループワーク



③ 機器展示



④ 賛助会員セミナー



④ 賛助会員セミナー：希望されるセミナーがあればご記入ください

- ・ 今後普及が考えられる新しい器械（8年目）

		ご意見（教員歴）
プログラム構成について	⑤ 教育講演	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ストレス耐性」を入社試験に用いる、といったウワサをよく聞くので興味深うかがいました。（31年目） ・ 理解しやすい講演でした。ご多忙の先生とは存じますが、もう少し時間があればレジリエンスについて更に理解が深まります。GW発表後先生のコメントをいただければありがたいと思いました。（27年目） ・ 「レジリエンス」について非常にわかりやすい講演で興味深かった。研究の動向がわかった。具体的な方法（効果）についてもっと詳しくお話を聞きたいと思った。（14年目） ・ とても勉強になり90分ではもったいない位の内容でした。（13年目）

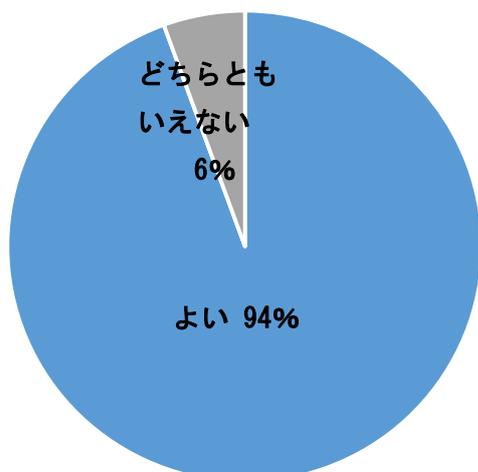
	ご意見（教員歴）
プログラム構成について	<p>⑤ 教育講演に関するご意見・ご感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変参考、勉強になりました。ただ、もう少し概論的でなく、実践に活かせる内容もいれていただけるとうれしいです。（13年目） ・レジリエンスに関しての知識が得られ、今後の指導に活かしていきたい。（19年目） ・レジリエンスという言葉は聞いたことがなかったのですが、大変分かりやすく、学生指導に活かしていこうと思います。（12年目） ・最近注目されている話題について、知ることができました。自ら問題解決していくための力として学生指導に組み入れたい。（11年目） ・精神面での問題を抱える学生が多いので、とても興味深くお話をうかがいました。ワークについてもう少し詳しく知りたかったです。（10年目） ・とても勉強になりました。続きがききたいです。（9年目） ・改めてレジリエンスの見解が広がった。（9年目） ・年代に合わせた学生の心理的特徴を理解できる貴重な機会をいただき、学んでいます。（9年目） ・レジリエンスについて詳しく話がきけ、とてもためになりました。ワークや個々の学生への対応についてももう少し話を聞ければよかったです。（9年目） ・大変分かりやすく、勉強になりました。（8年目） ・大変勉強になりました。具体的な学生のケースに基づいた説明をしていただけるとありがたいです。（8年目） ・自己肯定感の低い学生が多い中、ストレスに対するこころの強さを身につけることは実習中、臨床に出た後にも役立つと思いました。（6～7年目） ・興味のあるテーマで、とても勉強になりました。（5年目） ・興味深い内容でわかりやすくよかったです。具体的な事例や方法論をもう少し教えていただきたいかったです。（5年目） ・わかりやすく、興味深い内容でした。学生に置き換えて考えることができましたが、解決方法が具体的には分かりませんでした。（4年目） ・レジリエンスは教育講演を聞くまで知らなかったのですが、その重要性を知ることができ大変良かったです。（3年目） ・具体的にどのようにしたら良いかを聞きたかったです。（2年目） ・今の学生指導に必要なタイムリーなテーマであり、とても興味深かったです。（2年目） ・レジリエンスに関して恥ずかしながら初めて聞く言葉でしたので非常に勉強になりました。（1年目） ・はじめて聞く用語なのでためになる。（1年目） ・自分にもおき変えられたり、学生にどのように精神面をアドバイスできるか勉強になったりととても貴重な講演だったと感じます。（1年目） ・とても良かった。（1年目） ・概念のみの講演だったのが残念。実践的な内容も聞きたかったです。（1年目） ・とても勉強になりました。もう少し時間欲しかったです。（1年目）

		ご意見（教員歴）
プログラム構成について	⑤ 教育講演	<ul style="list-style-type: none"> ・レジリエンス、初めて聞いた言葉だったので大変勉強になりました。（１年目） ・講演内容はとても興味がある内容でとても参考になりました。（１年目） ・とても参考になりました。学生指導に用いていきたいです。（１年目） ・レジリエンスについてどの様な事なのかが分かった。レジリエンスの拡がりについてもう少し詳しく伺いたかったです。（１年目）
	⑥ グループワークに関するご意見・ご要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ORTの先生方の教育への熱意にうたれました。（３０年目） ・グループワーク、班分け等 WGの先生が熟慮して決めてくださったと思いました。ありがとうございました。（２７年目） ・他校の方の取り組みなどを知る事ができ有用でした。（１９年目） ・他学校での取り組みや授業方法を知る機会となり、とても刺激的だった。様々な意見交換が出来、非常に良かった。（１４年目） ・いろいろな世代の教員が１つの課題にとりくみ学びの多い時間となりました。（１３年目） ・他校の取り組み等聞かせていただき勉強になります。（１３年目） ・日頃の疑問点なども話し合うことができ、よかった。（１２年目） ・協力して進めていくことができた。実際の運用を考えながらワークを行い、有効と感じました。（１１年目） ・報告形式になり、教員の負担が少なくなり良かったかと思います。（９年目） ・報告形式とした事で議論する時間が増え、まとめやすかった。（９年目） ・様々な学校の先生と話を聞け、とても有意義な時間でした。臨地実習については課題も多いため、今後に生かしていきたいです。（９年目） ・３つのテーマがあったが、オーバーラップするところも多く、できれば次回からは独立したテーマがある方が勉強になります。（８年目） ・他の養成校の先生方と情報を共有することができ、勉強になりました。（８年目） ・他の養成校の状況を聞くことができ大変有意義でした。今回の発表の内容をぜひ教育に取り入れていきたい。（７年目） ・他校での取り組みを知ることができ大変良かったです。（６～７年目） ・パワーポイントの作成にかかる時間がなく有意義にディスカッションできました。（６年目） ・他校の実践内容を聞く事ができ、とても参考になりました。（５年目） ・共通する問題点が多く、共有・共感できることが多いただけでなく、とりくみや提案が刺激。（５年目） ・様々な意見をうかがえ大変勉強になりました。（４年目） ・他校の指導方法がわかり、自分の学校でも取り入れようと思う課題などを知ることができました。（２年目） ・とても良い人員配置だったと思う。（２年目） ・他校の授業の様子や学生像、カリキュラムの話がきけてとても勉強になりました。（１年目）

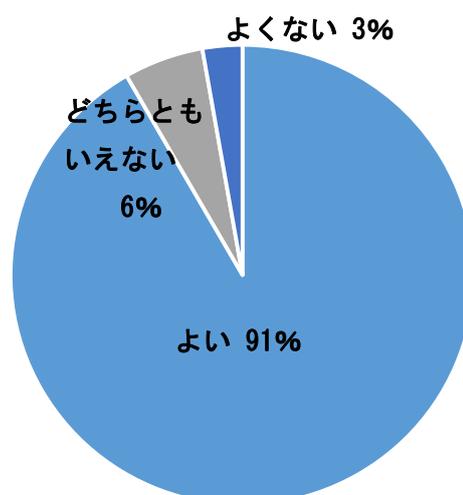
		ご意見（教員歴）
プログラム構成について	⑥ グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な学校の指導方法を伺うことができ、有意義な時間でした。（1年目） ・ 時間がもう少し欲しかった。（1年目） ・ 教育経験が浅くグループワークの内容になかなか発言ができなくて自分の勉強不足を認識できました。今回得られた知識をこれからのことにぜひ生かして行きたいと考えます。（1年目） ・ いろいろな学校の情報が得られてよい。（1年目） ・ 発表時間が足りなかった。（1年目） ・ 勉強になった。（1年目） ・ いろいろな学校の先生方と意見交換できて、有意義な時間になりました。（1年目） ・ 他の先生方も同じような悩みをおもちで、解決策を色々聞いて今後役に立てることができそうです。（1年目）
	⑦ 来年度の教育講演で希望されるテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハラスメントについて、学生心理に関連する内容。（27年目） ・ 実習指導者との連携（問題学生への対応に対していかに連携をとるべきか）。（19年目） ・ 学生自身の自己評価が高い学生と低い学生がいます。それは何故なのか、適切な自己評価できるように指導する方法はどのようなものか。知りたいと存じます。（14年目） ・ 実習中断や自己リタイアに対してのサポートやそれを防ぐための指導。（13年目） ・ レジリエンスの具体的方法をもっと教えていただきたいです。（12年目） ・ 学生からの相談（成績不振、学生間対人トラブルなど）への対応。（10年目） ・ 参加しやすい日程でした。（10年目） ・ 他職種の臨地実習についての講演（医療教育）。（9年目） ・ 実習レポートの指導について。（9年目） ・ レジリエンス獲得の為、学生にどのような指導を行えばよいか具体的なものを。（9年目） ・ ハラスメントへの対応、学生カウンセリングの方法。（9年目） ・ 実習中、遠距離の実習施設で実習している学生の指導。（8年目） ・ 臨地実習中の学生指導とはどのようなことを指しているのかイメージがいまひとつつかめません。養成校により、指導内容や分量にだいぶ差があると思います。（7年目） ・ レジリエンスに関しては、何度か話を聞いたことがあったので、概要だけでなくもう少し事例など具体的なお話がほしかったです。（6年目） ・ レジリエンスの方法、アプローチ（事例、症例）。（5年目） ・ 臨床が考える教育と教育現場が考える臨床をすり合わせる。（4年目） ・ 効果的な学生への面談方法。（3年目） ・ 学生のメンタルヘルスについて。（2年目） ・ 臨地実習中の国家試験対策について。（1年目） ・ レジリエンスの実践的なとり組みなど。（1年目）

2. 運営について

① 開催日の設定



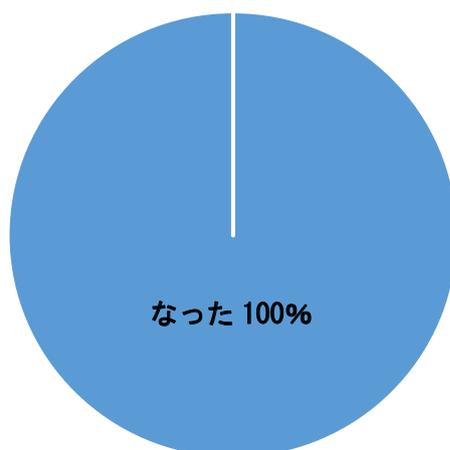
② タイムスケジュール



		ご意見（教員歴）
運営について	① 開催日	<ul style="list-style-type: none"> ・木、金だとありがたいです。（9年目）
	③ その他ご意見・ご要望	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの発表について例年のパワーポイントからPDFに変更された点は、発表前負担が少なくなったのではと思います。報告時間が5分では少ないと感じました。（27年目） ・各グループの発表が、かいつまんだものとなるのは残念です。そのグループでの話し合いの内容をしっかりと聞きたいと思いました。（14年目） ・いろいろご配慮下さりありがとうございました。（13年目） ・スムーズに研修が行われてよかった。（12年目） ・いつもお世話になります。施設の場所もわかりやすく設備もよくて良かったです。（9年目） ・部屋が寒すぎます。（8年目） ・グループワークの発表時間をもう少し長めにしていただければと思いました。（8年目） ・発表時のスライドは全体が見えず、紙での配布等頂けたら嬉しいです。（6～7年目） ・発表時間がやや短い、発表の際は手元資料が欲しい。（4年目） ・パワポではなくワードの発表でよかった。発表よりグループワークに意義があると思うのでグループワークの時間が長かったのはよかった。（2年目） ・発表時間を伸ばすのもいいが、5分でおさめる各グループの努力も必要かと思いません。（2年目） ・グループワークの発表時間が短かった。（1年目）

3. 研修会全体について

① 教育活動の参考になったか



		ご意見（教員歴）
研修会全体について	② 全体に対するご意見・ご要望・感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員研修会の参加者が、昨年に比べて増え、WGの先生方のご尽力により種々の工夫が加えられて充実した研修会が開催されていると思います。ありがとうございます。今後共どうぞよろしくお願い申し上げます。新井田会長のもと本協会がますます発展されますようよろしくお願いいたします。（27年目） ・ 研修会の運営を担当されたワーキンググループの皆様、本当にありがとうございました。いろいろ配慮いただきありがとうございました。（14年目） ・ レジリエンスを高めるためにポイントをしぼったグループワークもよかったかなと思いました。（13年目） ・ 他校の先生方との交流で、多くの話を聞くことができ、大変有意義な時間となりました。講師の先生、運営していただいたスタッフの皆様ありがとうございます。感謝申し上げます。（12年目） ・ 企画、運営くださりありがとうございました。とても勉強になりました。臨地実習の時に活用させていただきます。（10年目） ・ グループワークの発表時間はもう少し長くても良いと思います。ワードでのプレゼンは難しいです。後日配布の資料をよく読みたいと思います。事務局のみなさま、運営ありがとうございました。（10年目） ・ 報告の時間と形態が少し勉強しにくかった気もしますがグループワークがとても充実していたのでよかったと思います。（9年目） ・ 教育講演にて専門的知識、手法が学べて良かった。GWでは各校の取り組みが知れて参考になった。（9年目） ・ 年に1度、各校の教員の皆様の貴重なお話を聞くことが出来て、今後の学生指導に役立てていければと思います。（9年目） ・ 有意義な時間となりました。お忙しい中運営お疲れ様でした。臨地実習については、すぐ実践できそうなことも多くとても有意義でした。今後もぜひ参加したいと思いました。（9年目）

		ご意見（教員歴）
② 研修会全体に対するご意見・ご要望・感想		<ul style="list-style-type: none"> ・wordでの発表は見にくいため、PPが適切ではないか。内容とGWの時間は適切であった。発表時間の設定は考慮した方が良い。自分のGWに関する時間ばかりなので全体の時間が増えるとなおよい。（8年目） ・他の先生方の意見を聞きとても参考になりました。（8年目） ・非常に学びの多い研修会でした。ありがとうございます。（6～7年目） ・研修会の準備、運営ありがとうございました。（6年目） ・教員としてのモチベーションを上げる機会となりました。有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。（5年目） ・とても楽しく参加させてもらいました。来年もぜひ参加させていただきます。（4年目） ・教員として欲する教育講演とGWでした。今後の学生指導にぜひ生かしていきたいです。（3年目） ・プログラムも大変よかったですと思いますが、他校の教員と交流を持てたのがとてもよかったですと思います。（2年目） ・グループの人数が適当だった。（2年目） ・各学校の特色を知ることができたり、情報交換できたりとても刺激的でした。ありがとうございました。（1年目） ・情報交換の場としてとても有効でした。（1年目） ・とても良かった。（1年目） ・教員歴、視能訓練士歴ともに浅く不安でしたが、同じような新規の学校から来た先生もいらっしや、またベテランの先生方も多く、「かつて悩んでいた悩みは自分だけでなかったんだ…」「そんな効率的な教え方があったんだ！」など本当に本当に勉強になり、不安も解消できました。ありがとうございました。（1年目） ・大変勉強になりました。（1年目） ・初めて参加させていただきました。また教育に関する経験が浅く、研修会の内容はとても参考になり、勉強させていただきました。これから教員としての経験値を上げてぜひまた参加したいです。（1年目） ・初めて参加させていただきましたがとても勉強になりました。（1年目）

会長総評

会長総評

教員の資質向上と教育指導内容の充実を図ることを目的に、平成20年度から始まった教員研修会ですが、今回で11回目を迎えました。皆様の暖かいご支援とご協力により、今年も全国の養成校から42名もの多くの方々にご参加いただき、盛会のうちに無事終了することができました。今年度も学生募集を始めとする様々な学校行事が予定されている8月下旬の開催でしたが、教員の派遣に快く応じていただきました養成校の関係各位には、この場をお借りして謹んで御礼申し上げます。

今回の教育講演では「学生のレジリエンスの理解とアプローチ：ストレスを乗り越える力を引き出すための視点と工夫」というタイトルで東京家政大学 人文学部 心理カウンセリング学科の平野真理先生をお招きいたしました。レジリエンスは近年、さまざまな領域で注目されており、困難な状況から回復し、上手く適応する課程や能力を意味し、ストレスに対する柔軟性を表す概念と捉えられています。平野先生のご講演を拝聴して、心理学におけるレジリエンスの定義とその変遷、レジリエンスに寄与する様々な要因の相互作用と個人差の存在、多様なレジリエンスを評価するための尺度とその留意点、レジリエンスを高めるポイントやその広がりを考える上での資質に関する4種類の方向性等、レジリエンスに関する最新の知識や最先端の動向を幅広く学ぶことができました。平野先生には非常にご多忙の中、講演依頼を快くご承諾いただきました。分かりやすい講義資料に加えて、要点を絞り、かみくだいた解説のお蔭で、心理学への造詣があまり深くない私たちでも内容を的確に理解することができました。有意義な学びの機会を与えていただきましたことに改めて心より感謝申し上げます。

講演に引き続いて、7つの班に分かれて“臨地実習前の学生指導”を想定して“態度と行動”、“患者接遇”、“知識・技術”のテーマ別にコマシラバスを作成していただきましたが、研修会に複数回参加されている方々も多いため、意見の集約やスライド作りは手慣れた様子でした。翌日の発表では、“態度と行動”に関しては適切な言葉づかいやコミュニケーション能力を向上させるための面談を含めた個別指導、実習中のトラブル事例検討会や先輩からの経験を踏まえたアドバイスの活用、“患者接遇”では反復練習を通じて学生同士でのグループ評価や敬語の使い方や立ち振る舞いをビデオ撮影しグループワークによるフィードバック、“知識・技術”では学生が作成した症例プロフィールで問診の実習や鑑別診断を行うことで自ら検査の優先順位を導き出せるようにするなど様々なアイデアが紹介され、活発な討論が繰り広げられました。例年のことですが、他施設の教員の考え方やアイデアを知ることは、経験年数の浅い教員のみならずベテラン教員にとりましても自らの指導法や対処法を顧みる上でとても参考になります。一方で、発表時間が限られていたため、最後まで同じペースで発表できない班も見受けられ、レジリエンスを具体的に高めるためには何が必要なのか、もう少し踏み込んだ討論ができればさらによかったと思われる場面もありました。

レジリエンスの概念は既に看護師養成を始め、言語聴覚士等のリハビリテーション職の養成でも研究成果が報告されています。さらに、看護管理や精神医学に加えて、外科手術等の医療安全においてもレジリエンスエンジニアリングの視点が導入されてきています。今後、視能訓練士の養成課程や臨床の現場においても、レジリエンスの概念が広く浸透していくことを期待しています。

昨年の総評でも触れましたが、有効求人倍率は1.6倍を超えて44年ぶりの高水準となっており、医学部を除いて医療系を目指す高校生は減少傾向にあると言われていています。少子化は大都市圏より地方で加速しており、一部の養成校では学生確保に苦慮しているのが現状です。このように厳しい

状況下ではありますが、日本視能訓練士協会のご尽力により“視能訓練士”に関する職業紹介本や冊子が2018年度に相次いで発刊されました。「視能訓練士になるには（ペリカン社）」、「視能訓練士の一日（保育社）」、「まんがでわかるメディカルスタッフの仕事⑨ 視能訓練士（チーム医療推進協議会）」の3冊です。医療系職種を目指す高校生に対して視能訓練士の認知度を向上させることは学生募集上極めて重要であり、今後の志願者増や将来の有能な視能訓練士の輩出に寄与することを大いに期待しています。一方、最近入学してくる学生の質が明らかに変化してきていることを実感しています。デジタルネイティブ世代の学生はSNSの普及に伴ってコミュニケーション能力や文章表現力が明らかに低下しています。さらに、今後AIやIoTが急速に進歩していく中で、視能訓練士の業務がどのように変化していくのかも未知数です。先日の日本神経眼科学会でも視線解析を応用して一分以内にHessの自動測定が完了するシステムの開発や将来の自動診断化に向けた取り組みが発表されていました。AIによる補助診断法が将来大きく進展すると、問診から鑑別疾患を想定し、必要な検査を取捨選択し、AIのピットフォールを補いながら、より高度な知識や判断力が求められるようになる可能性があります。しかし、病を抱えた患者の心の状態を推し量りながらコミュニケーション能力を活用して患者や家族と信頼関係を築き、最適な検査結果を引き出すプロセスや、医師を含めた他職種との密接な連携によるチーム医療はAIには決してできません。AI環境下で生き残るためには能動思考と情報検索力が鍵になるとも言われています。昨年度の教育講演のテーマとして取り上げたアクティブラーニングの活用もデジタルネイティブ世代のレジリエンスを高めるためには必要不可欠な手法ではないかと考えられます。

さて、賛助会員の企業の皆様には日頃大変お世話になっておりますが、今回は過去最多となる7社に出展していただきました。有益な最新情報を提供していただき参加者一同、大いに知識を深めることができました。お忙しい中、出展いただきました株式会社インサイト、株式会社システムギアビジョン（旧：株式会社タイムズコーポレーション）、株式会社ティエムアイ、東海光学株式会社、株式会社ニデック、日本アルコン株式会社、HOYA株式会社ビジョンケア部門の担当者各位にはこの場をお借りして深謝申し上げます。

また、今回の研修会は一昨年に引き続き、滋慶学園の本部で開催させていただきました。研修会を開催する上で利便性が高く、各種設備が整っており、申し分のない環境の中で2日間の研修会を実施することができました。快く会場をご提供いただいた学校法人滋慶学園の法人関係者各位並びに教職員の皆様に当協会を代表して心より御礼を申し上げます。

最後になりますが、企画から開催準備、報告書の取りまとめに至るまで、ご尽力いただいた教員研修ワーキンググループの諸氏に改めて深謝申し上げます。

全国視能訓練士学校協会

会長 新井田 孝裕

全国視能訓練士学校協会 加盟校一覧

視能訓練士養成大学

	施設名	学科名	所在地
1	東北文化学園大学	医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚機能学専攻	宮城県仙台市
2	新潟医療福祉大学	医療技術学部 視機能科学科	新潟県新潟市
3	国際医療福祉大学	保健医療学部 視機能療法学科	栃木県大田原市
4	帝京大学	医療技術学部 視能矯正学科	東京都板橋区
5	北里大学	医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻	神奈川県相模原市
6	平成医療短期大学	リハビリテーション学科 視機能療法専攻	岐阜県岐阜市
7	愛知淑徳大学	健康医療科学部 医療貢献学科 視覚科学専攻	愛知県長久手市
8	大阪人間科学大学	医療福祉学科 視能訓練専攻	大阪府摂津市
9	川崎医療福祉大学	医療技術学部 感覚矯正学科 視能矯正専攻	岡山県倉敷市
10	九州保健福祉大学	保健科学部 視機能療法学科	宮崎県延岡市

視能訓練士養成専門学校

1	北海道ハイテクノロジー専門学校	視能訓練士学科	北海道恵庭市
2	吉田学園医療歯科専門学校	視能訓練学科	北海道札幌市
3	東北文化学園専門学校	視能訓練士科	宮城県仙台市
4	仙台医健・スポーツ&こども専門学校	視能訓練士科	宮城県仙台市
5	新潟医療技術専門学校	視能訓練士科	新潟県新潟市
6	専門学校日本医科学大学校	視能訓練士科	埼玉県越谷市
7	東京医薬専門学校	視能訓練士科	東京都江戸川区
8	首都医校	視能訓練士特科	東京都新宿区
9	日本医歯薬専門学校	視能訓練士学科	東京都杉並区
10	静岡福祉医療専門学校	視能訓練士学科	静岡県静岡市
11	名古屋医専	視能療法学科	愛知県名古屋市
12	洛和会京都厚生学校	視能訓練士学科	京都市山科区
13	京都医健専門学校	視能訓練科	京都市中京区
14	大阪医専	視能療法学科	大阪市北区
15	大阪医療福祉専門学校	視能訓練士学科	大阪市淀川区
16	神戸総合医療専門学校	視能訓練士科	兵庫県神戸市
17	松江総合医療専門学校	視能訓練士科	島根県松江市
18	福岡国際医療福祉学院	視機能療法学科	福岡県福岡市
19	大分視能訓練士専門学校		大分県大分市
20	西日本教育医療専門学校	視能訓練士学科	熊本県東区

全国視能訓練士学校協会 賛助会員一覧

施設名	所在地
株式会社インサイト	宮城県仙台市泉区長命ヶ丘 3-28-1
クーパービジョン・ジャパン株式会社	東京都港区六本木 1 丁目 4 番 5 号 アークヒルズサウスタワー
株式会社シード	東京都文京区本郷 2-40-2
ジャパンフォーカス株式会社	東京都文京区本郷 4 丁目 37 番 18 号 IROHA-JFC ビル 5F
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	東京都千代田区西神田 3 丁目 5 番 2 号
株式会社システムギアビジョン (旧：株式会社タイムズコーポレーション)	兵庫県宝塚市高司一丁目 6 番 11 号
株式会社ティエムアイ	埼玉県新座市新座 1 丁目 2 番 10 号
東海光学株式会社	愛知県岡崎市恵田町下田 5 番地 26
株式会社トプコンメディカルジャパン	東京都板橋区蓮沼町 75-1
株式会社ニデック	愛知県蒲郡市拾石町前浜 34 番地 14
日本アルコン株式会社	東京都港区虎ノ門 1 丁目 23 番 1 号 虎ノ門ヒルズ森タワー
HOYA 株式会社ビジョンケアカンパニー	〒164-8545 東京都中野区中野 4 丁目 10 番 2 号 中野セントラルパークサウス 6F

※五十音順

全国視能訓練士学校協会
平成30年度 第11回教員研修会報告書

平成31年3月発行

発行 全国視能訓練士学校協会

事務局 平成医療短期大学
リハビリテーション学科 視機能療法専攻
〒501-1131 岐阜県岐阜市黒野180番地

(許可なく複写転載を禁ず)